

平成27年（2015年）9月15日外部評価実施

少路地域包括支援センター（北中部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

総人口：65,063
高齢者人口：14,648
高齢者率：22.51%

北中部圏域は大きな2ヶ所のUR団地と40年前に開発された住宅地に大別され、圏域内に商店街がなく、銭湯、遊興施設等の人の集まる場所や、病院、診療所が少ないことがあげられます。また坂道が多く市内中心部へのアクセスは路線バスとなっているため、足腰が弱い高齢者にとって外出の困難が「閉じこもり」へつながる懸念がある地域です。

センターの取組方針や特徴

コミュニティ・ソーシャルワーカーと連携して、独居高齢者や、経済的困窮者への訪問を行って生活実態の把握やサービスについての情報提供などを積極的に行っています。また、地域ケア会議「高齢部会」を開催して地域課題に取り組むとともに、自治会、マンション管理組合にも出向き市民への介護予防啓発に向け取り組んでいます。

総評

【特に評価の高い点】

●センターの周知について

センター独自でフェイスブックを開設し、定期的に地域の様々な情報や、センター主催の地域教室の開催案内などの情報発信に力を入れています。また、商業施設の空き店舗を利用した相談会を開催し、毎回好評を得ています。

●医療と介護の連携について

虹ねっとのモデル事業「少路・柴原あんしんプロジェクト」に取り組み、地域の病院、診療所の医師、MSW、訪問看護師、薬剤師等と意見交換をし、在宅医療を安心して受けることができる后方支援システムづくりに取り組んでいます。

【特に改善を求められる点】

●個人情報の適正な管理について

個人情報保護のより慎重な取り扱いが求められます。

●公正・中立性の確保について

介護予防支援業務において、自法人が提供するサービス事業所に30%を超えた利用が見られ、公正・中立性の確保が求められます。利用者のサービス利用の選択肢を増やすうえでも今後の改善が求められます。

●医療と介護の連携について

介護関係者と医療機関との連携体制を構築するために地域ケア会議「高齢部会」に医療従事者の参画の働きかけが求められます。